

# 診療情報に基づいた病院経営の実践

## －国立病院機構都城医療センターの事例報告－

吉住秀之<sup>†</sup>第78回国立病院総合医学会  
2024年10月18日 於 大阪

IRYO Vol.79 No.3 (141-143) 2025

### 要旨

少子高齢化が進む日本において、医療環境も急速に変化を遂げている。患者の高齢化と外来患者の減少が進んでいく中、10年後に急性期病院としての機能を維持するための方略について、現在までの国立病院機構都城医療センターの病院経営をふり振り返り考察した。そのためには、2次医療圏での入院患者の動向を医療データに基づき分析することで、地域医療に必要な診療を選択し、医療資源を集中することが戦略の基本となる。収益確保のための具体的戦術として、診療内容と Diagnosis Procedure Combination (DPC) コーディングの妥当性の検討、症例ごとのDPC点数と出来高点数との比較や他院との診療実績の比較を行うことで一定の成果を上げることができた。その一連の作業においては診療情報管理士の貢献が必須であった。また、その結果を地域医療連携活動に結びつけて、入院患者を確保することが病院の生産性維持向上に必要であると考えた。今後は社会経済環境の変化にも耐えて病院機能を維持できるよう取り組んでいく必要がある。

キーワード 診療情報管理士, 病院経営, DPC

### はじめに

国立病院機構都城医療センター（当院）は宮崎県南西部に位置する人口16万人弱の都市に位置する都城西諸県医療圏の2次医療機関である。病床数は305床で、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターの機能を有している。都市は県外からの移住に組み、人口の社会増がみられ令和6年人口は15万9,545人と前年より1,182人増加しているものの平成18年周辺4町と合併した当時の17万928人からは減少傾向である<sup>1)</sup>。

こうした中で病院を維持していくためには、その地域に必要な医療を提供するとともに健全な病院経営を続けて行かなくてはならない。本稿では当院の5年間の取組みを報告する。

### 方法

病院経営のために基本とした経営戦略を、当院に必要でかつ他院と競合しない診療の医療の生産性向上と独自性のある分野（がん疾患および周産期）の強化とした。具体的戦術としては、以下の項目の中

国立病院機構都城医療センター <sup>†</sup>医師

著者連絡先：吉住秀之 国立病院機構都城医療センター 〒885-0014 宮崎県都市祝吉町5033番地1

e-mail : yoshizumi.hideyuki.ft@mail.hosp.go.jp

(2025年2月17日受付 2025年4月18日受理)

Practice of Hospital Management Based on Medical Information: A Case Report of NHO Miyakonojo Medical Center

Hideyuki Yoshizumi

NHO Miyakonojo Medical Center

(Received Feb. 17, 2025, Accepted Apr. 18, 2025)

Key Words : health information manager, hospital management, DPC